

茂原市鷲巣地区土地区画整理事業に伴って、昭和62年に第六天向遺跡が発掘調査され、その時に出土した手焙形土器は、全国的にも珍しい土器です。

弥生時代後期から古墳時代前期（2世紀後半～4世紀初頭）という限られた時期に、鉢の上に覆いが付いた土器が出現します。後世の炭火を入れて手を暖める手焙り用火鉢に似たその形状に由来して、手焙形土器と呼ばれています。

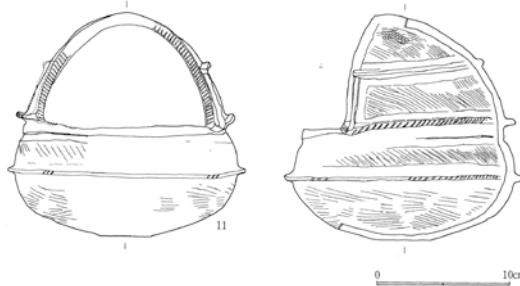
特異な形で、出土数も少ないことから正確な用途は分かりませんが、一遺跡に一つだけ出土することが多いことから祭祀用と考えられている土器です。覆いの内側に煤がついているものがあり、何かを燃やしていたことがわかります。

最初に出現するのは、弥生時代後期に大阪河内地方・京都・兵庫です。続いて弥生時代後期末に近畿地方を中心に東海・北陸・中国地方に分布

するようになります。古墳時代初頭になると関東・東海・北陸・近畿・中国・四国に拡大し、その後北部九州まで拡大します。古墳時代前期になると、九州や中国・四国では見られなくなり、関東・東海・北陸・近畿から少数出土しています。このことから祭祀を司る権威の象徴としての「手焙形土器」が近畿地方から各地方へと出土分布が広がっていく様子が認められます。

全国的に見ると関東・東海・北陸・近畿・中国・四国・九州北部から700点以上の出土例があり、多いのは、滋賀県（近江）・大阪府（河内）・三重県（伊勢）・岡山県（吉備）です。千葉県内では、26遺跡31点が出土し、（平成30年現在）東京湾沿いの千葉市・原市・袖ヶ浦市・木更津市で複数遺跡から、外房では茂原市と南房総市千倉地区で出土しています。関東では千葉県の出土例が多く、古墳時代初頭から非在地系土器の出土が認められ、大和政権が東国を勢力下に置くために千葉県を足掛かりにしていたことが想定されます。

第六天向遺跡から出土した手焙形土器は、器高16・9cm、最大径17cmを測り、第004号住居跡の北半部床面上から鉢部分が、若干離れて覆い部分が覆土中から出土しています。時期的には、古墳時代初頭から前期前葉くらいに想定されます。



前茂原市文化財審議会委員

麻生 正信

任期満了により、令和2年3月31日をもって麻生正信氏は茂原市文化財審議会委員を退任されました。長きにわたる文化財に関するご指導・ご助言をいただきました。

文芸コーナー

目を閉じて 目を開けて

山本 明美

誰もいない原っぱで
目を閉じて
両手を広げて
思いつきり息を吸う

枯草の匂
稲穂の匂
叔穀を焼く匂
花の匂

揺れて漂う季節の匂

誰もいない原っぱで
目を開けて
背伸びして
時々しゃがんでみたりする

堰のまわりのコスモスの花
土手の下にはたわわに実る柿
休耕田の芒の群れ
清々しい青竹の林
足元に大好きな野菊

誰もいない原っぱの
四方八方 独り占め
まるで秋の主の顔をして
ゆっくり辺りを見定める

空も雲も風も
木や花や草や
飛ぶ鳥達までが
私にささやく
ここだけの秘密の話

◎選評 斎藤正敏

誰もいない原っぱで、目を閉じて目を開けて自然を満喫する作者です。季節の主の顔をして四方八方独り占めです。

- 偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。
- 投稿は楷書でお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。
- ※詩の原稿送付先（直接選者）へ 〒297-0032 茂原市東茂原7番地 斎藤正敏宛。
「広報もばらの詩」と朱書きしてください。原稿は30行以内でお願いします。